

# Top Message

## 持続可能な社会の発展のために



### 経営統合について

東京エレクトロングループは、半導体およびディスプレイ製造装置業界における「グローバル・イノベーター」を目指し、2014年にアプライド マテリアルズ社との経営統合を予定しています。両社のもつ最先端の技術とサービスが互いに補完し合うことで、世界最高水準の開発力と財務基盤を整え、画期的な技術革新・製品開発を加速するとともに、お客さまの高度なニーズにタイムリーかつ的確に応えるサポート力を備える最高品質の経営体制を実現します。経営統合によって、今後の半導体および半導体製造装置産業の一層の発展、さらには持続可能な社会の発展に大きく貢献することができると確信しております。

また、これを機に、当社グループの社員にはさまざまな挑戦の扉が開かれようとしています。最先端技術を提供するグローバル企業として成長し続けるために、多様な人材がいきいきと働くことができる環境を整え、それがさらに優秀な人材を育てるという相乗効果を生むことができるよう努めてまいります。

### 2013年を振り返って

2013年は、改めてCSRを企業理念の中に位置づけ、専任部門を中心に全社的なCSR基盤を確立した一年となりました。例として、ガバナンス体制の整備、CSR推進担当取締役の任命、さらに、海外グループ主要拠点を含めた各社CSR推進組織を構築し、経営と直結したCSR推進体制を整えました。実務面では、2013年に加盟した国連グローバル・コンパクトの10原則を拠り所とし、電子業界の行動規範であるEICC®を企業活動に取り入れ、事業における社会的課題の特定とその取り組みを着実に実行してまいりました。主な取り組みの成果として、



製品のエネルギー使用量を2014年度までに50%低減させるという環境目標を、2013年度中に前倒しで達成しました。また、CSRの取り組みをサプライチェーン上にも展開し、取引先さまにおけるCSR体制の整備、グリーン調達、紛争鉱物への取り組みなどについて共同作業を開始いたしました。さらには、社会への働きかけとして次世代の科学教育分野への参画や、東日本大震災被災地における教育支援や福祉支援などを進めてまいりました。

CSRは、企業活動の根幹を支え堅固なオペレーションを確実にする重要な要素として、また社会のサステナビリティを実現していくための普遍的な取り組みとして、枠にとらわれず今後も継続して推進すべき責務であると考えています。

## 本報告書と今後の情報開示について

ステークホルダーの皆さまのご要望やご期待に真摯にお応えすることは、企業にとって基本的な責務であると考えています。今回の報告書では、特にステークホルダーの皆さまのご関心が高い事項を報告のマテリアリティ(重要度)として特定し、これに沿った編成にすることで、皆さまにとってわかりやすく、透明性のある報告を目指しました。今後の当社の動向については当社ウェブサイトやプレスリリースにおいて情報を適時に開示し、ステークホルダーの皆さまへご報告させていただきます。

新たな一歩を踏み出す当社グループを、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

東京エレクトロン株式会社  
代表取締役会長兼社長

東 啓 郎

## Contents

トップメッセージ	P2
目次／報告対象	P3
東京エレクトロングループ CSRの歴史／会社概要	P4
編集方針と重点報告課題 (マテリアリティ)について	P6
コーポレート・ガバナンス	P8
社員とともに	P12
安全に関する取り組み	P14
品質に関する取り組み	P16
調達に関する取り組み	P17
環境に関する取り組み	P18
社会貢献	P24
外部評価(主な受賞歴)	P26
第三者所見／第三者所見をうけて	P27
CSR目標	P28
主な実績データ	P30
CSR各部分針	P31

### 対象範囲

東京エレクトロングループ(連結49社)  
(東京エレクトロンおよび国内・海外の子会社)

### 対象期間

2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)を基本としていますが、一部2014年度の取り組みも含まれます。

### 発行時期

報告書発行：2014年7月  
次回発行予定：2015年9月  
前回発行：2013年9月

### 参考にしたガイドライン

環境省：環境報告ガイドライン(2012年版)  
GRI(Global Reporting Initiative)：  
サステナビリティ・レポーティング・ガイド  
ライン第3.1版